

背景・課題

- 国際的に見ると全体としての我が国の研究力は相対的に低下傾向。
- 研究者一人当たりの研究支援者数が、諸外国と比べて少ない。
- 教育研究体制が複雑化し、研究者が研究に没頭できない。



1. 大学等における研究戦略や知財管理等を担う研究マネジメント人材が必要。
2. 研究者が研究に専念できる集中的な研究環境改革が必要。

事業成果の例

- Nature Index論文数
34,169件 (2009-2013)
→ **36,518件 (2014-2018)**
- EurekaAlert!Japanポータルサイト閲覧数
約 13万回 (2014)
→ **約164万回 (2018)**
- 機関あたり受託研究件数
410件(2012)
→ **596件(2017)**
- コンソーシアム形成による大学間連携
URAのネットワーク・知見を活かし、高度
専門人材活用、研究力分析、国際情報
発信、異分野融合研究を推進

【政府文書における記載】

<日本再興戦略(2013年6月14日閣議決定)>

研究者が研究に没頭し、成果を出せるよう、研究大学強化促進事業等の施策を推進し、リサーチ・アドミニストレーター等の研究支援人材を着実に配置する。

<統合イノベーション戦略2020(令和2年7月17日閣議決定)>

- ・ マネジメント人材やU R A、エンジニア等のキャリアパスの確立 (U R Aの認定制度等)
- ・ 優れた研究者等の雇用及び研究活動の継続等への支援に取り組む
- ・ 研究データ等の効果的・効率的な創出・共用・利活用環境の整備等、研究開発環境と研究手法のデジタル転換を推進する

事業概要

【事業目的】

- 大学等における研究戦略や知財管理等を担う**研究マネジメント人材 (U R Aを含む) 群の確保・活用**や、**集中的な研究環境改革**を組み合わせた研究力強化の取組を支援し、世界水準の優れた研究活動を行う大学群の増強を目指す。

【事業スキーム】

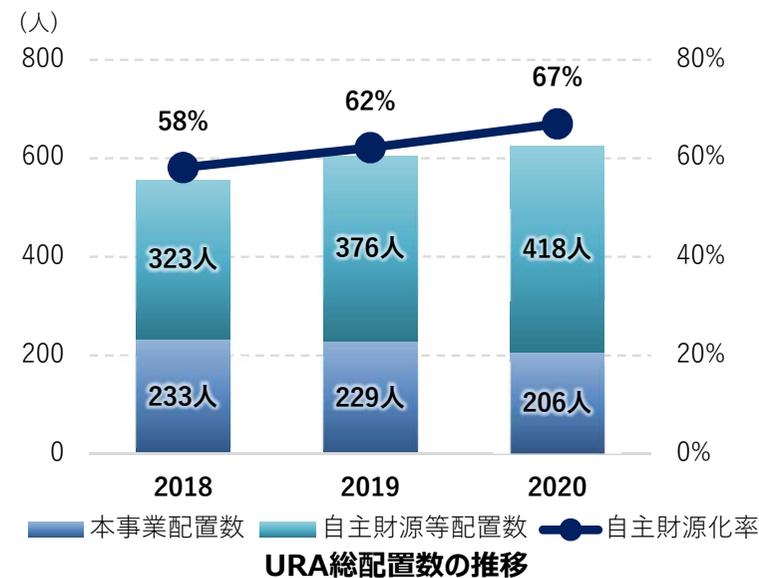
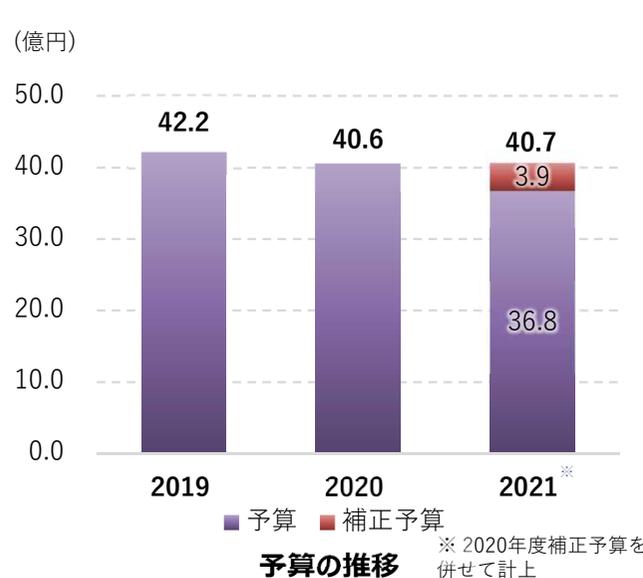
- 支援対象：大学及び大学共同利用機関法人 (研究活動の指標及びヒアリング審査より選定)
- 支援規模：1～3億円程度 / 年×10年 (2013年度～)
- 事業評価：学長経験者等で構成された委員会によるEBPMに基づく進捗管理

令和3年度予算(案)のポイント

大学の研究力の回復・加速のため、ポストコロナ社会を見据えたURAによる研究DXを推進

【支援対象機関 (22機関)】

機関種	機関名
国立大学 (17機関)	北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、電気通信大学、名古屋大学、豊橋技術科学大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学、熊本大学、奈良先端科学技術大学院大学
私立大学 (2機関)	慶應義塾大学、早稲田大学
大学共同利用機関 (3機関)	自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構



背景・課題

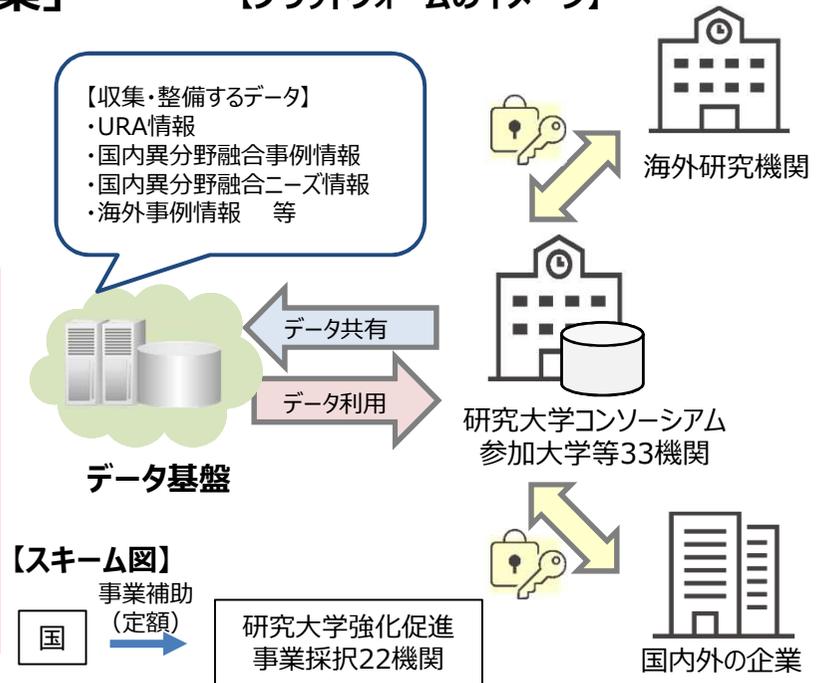
- 国内外の大学・企業と異分野融合・異分野連携・学際研究を進めるためには、研究者自身は専門を超えた連携を得意としないため、多様なスキル・知識・経験を有するURAによるマッチング活動が不可欠。
- しかし、コロナ禍により産学連携等収入減と産学連携活動の機会損失が発生。産学連携活動の一層の活性化が要請される中、高いセキュリティー環境を維持しつつ「新しい研究支援スタイル」に沿った活動がURAに求められている。
- 各大学で取組んでいる異分野融合は、必ずしも成功事例は多くなく、そのノウハウの蓄積も不十分。
- URA先進国の欧米各国においては、URAのためのデータ基盤の整備が進んでおり、我が国においても、早急に整備することで、共同研究の推進が可能になる。

→ **ポストコロナ時代の新しい未来を見据えた、研究DXを推進するURAのデータ基盤が必要**

「URAのための研究データ基盤の整備・構築」

- 我が国の研究力の中心となる大学等33機関で構成される「研究大学コンソーシアム(RUC)」で活用
- URA情報、異分野融合事例情報、新たな異分野融合のニーズ情報、海外事例情報を収集し、様々な角度から検索可能なシステムを構築
- 秘密保持契約した企業にもアクセスを認め、産学連携活動に活用可能

【プラットフォームのイメージ】



効果

- ✓ **研究者単独では開拓が難しい異分野融合・異分野連携を促進**
 - シーズレベルの情報も共有可能な、「新しい研究支援スタイル」に沿ったURAの研究DXを推進
 - 研究分野ごとの公開もしくは非公開の情報交換が可能な場を提供し、URAの研究支援活動を強力にサポート
 - 国内外のURA主導による異分野融合・産学連携のグッドプラクティス(成功事例)をエビデンスに基づき類型化し、新たな異分野融合の可能性を「見える化」
- ✓ **新たな共同研究の開拓・シーズ発掘を促進**
 - 機関単位でなく、研究分野の「面」として国際競争に挑戦可能

URAの業務内容

研究プロジェクトを支援 (プレアワード)

- プロジェクト企画立案
- 関係者等との折衝・調整
- 外部資金の獲得 など

研究プロジェクト実施を支援 (ポストアワード)

- 進捗管理・予算管理
- 評価対応
- 報告書の作成 など

研究を戦略的に支援 (研究戦略推進支援)

- 政策動向の調査・分析
- 研究力の調査・分析
- 研究戦略の策定 など

研究を多面的に支援 (関連専門業務)

- 産学連携、国際連携
- 研究倫理・コンプライアンス
- 研究広報、安全管理 など